

北朝鮮による弾道ミサイル技術と攻撃能力の向上

- **長射程化**: テポドン2・派生型(06年～)、ICBM級弾道ミサイル等(17年～)射程が15,000kmを超えるものも。
- **飽和攻撃のために必要な正確性・運用能力の向上**: 過去に例のない地点から、早朝・深夜にTELを用いて複数発発射するなどを繰り返す(14年～)。一部の弾道ミサイルには、終末誘導機動弾頭を装備しているとの指摘も(17年～)。
- **発射形態の多様化**: ロフトド軌道と推定される発射が確認(16年～)。
- **秘匿性・即時性の向上、奇襲的攻撃能力の向上**: SLBMの発射(16年～)。弾道ミサイルの固体燃料化推進の可能性(16年～)。
- **変則的な軌道**: 最近の新型の短距離弾道ミサイルには、通常よりも低高度で変則的な軌道を飛行することが可能とみられるものも(19年～)。

北朝鮮による弾道ミサイル等発射数・核実験回数



弾道ミサイル 計16発
核実験 計2回(06年、09年)

金正日委員長



弾道ミサイル等 計122発
核実験 計4回(13年、16年(2回)、17年)

金正恩委員長

